

〔 所感 〕

長崎市議会議員 向山 宗子

福州市友好都市提携30周年記念訪問を終えて

8月23日、昼、田上市長を団長とした公式団・38名、経済団・38名、市民団・20名の総勢96名からなる大訪問団は、長崎空港から上海乗換えで福州市へ。

私も公式訪問団の一員として参加させて頂くことができ、初めての訪中となりました。

夕刻、福州市へ到着すると、空港・沿道・宿泊ホテルに『長崎市田上富久市長、吉原孝議長ご一行のご来訪を歓迎します』との赤い横断幕。市を挙げての熱烈的な歓迎ムードの中、公式団他数名で、中国共産党福建省委員会のえん栄祥書記、蘇増添福州市長を表敬訪問。引き続き歓迎夕食会と和気あいあいとした交流がスタートしました。

翌24日は早朝より、両市の友好都市提携30周年を記念して福州市の木・がじゅまるを植樹する記念式典に参加。みんなでスコップを手に土入れ。その模様は、田上市長の福州市市民栄誉賞授与式の写真と共に、翌日の「福州日報」の一面を飾りました。



次いで、四分野に分かれての研修において私は「教育分野研修コース」に参加。福州市体育局を表敬訪問。先の長崎海フェスタの最後を飾った、ペーロン大会で私たち市議会さるくチームと共に舟を漕いだメンバーとも喜びの再会。友好の対話に花が咲きました。体育局の方々の案内で、福州市体育学校を視察。敷地面積1万k㎡、生徒数1000名、職員数123名。小学校1年生から高校3年生までの年齢の子ども達が、福州市全域から集う全寮制の学校です。バレーボール・卓球・水泳などオリンピック種目など23種目の教育がなされており、設立より約30年の間にワールドチャンピオン10数名・オリンピック後の国からの表彰3回、近年のトランポリン競技の金メダリストを輩出するなど輝かしい成果を誇っておられました。長崎の子ども達との友好親善試合もぜひ実現したいものだと語り合いました。国の仕組みや学校のあり方などに違いはあるけれど、スポーツに全力で取り組んでいる子ども達の輝く瞳は、いずこの地も同じだと、同年代の子を持つ母として、清々

しく嬉しいふれあいの出来た視察となりました。



全中国でチャンピオンになった女子バレーボールのメンバーと。
友好の記念にサインを入れた練習ボールを頂きました！

午後は、国際観光都市・長崎を福州の方々に向けての、観光プロモーションに参加。
夕刻は、田上市長の福州市榮譽市民称号授与式の後、96名全訪問団と一緒に福州市主催の祝賀会へ参加。終了後、全員ご招待頂いた、市の観光の目玉である「みん江クルーズ」の船上で地元テレビ局からインタビューをうける一幕も。多くの福州の皆様、長崎にお越し下さいとのアピールもさせて頂きました。



祝賀会の席上、答礼に市長・市議で「上を向いて歩こう」を合唱！

3日目、25日は、『三坊七巷』を視察。明・清時代から現代まで続く街並みをそのまま当時の模様に修復したもので、生きた歴史の博物館として称賛されている大事業との事。総面積、40ヘクタール。事業費、560億円。と、まちづくりも、スケールの大きさを痛感！福州市の一切の行事を無事に終えて、空路上海へ。飛行機5時間遅れのおまけつき。

すべてに、おおらかでした。

26日は、上海万博・日本館企画展の「孫文と梅屋庄吉展」を視察。「中国革命の父」と称される孫文と彼を生涯、物心両面で支援した庄吉。二人の熱き志と友情のストーリーが展示。上映されていたビデオも素晴らしい出来ばえでした。わが長崎の先人にこのようなスケールの大きい人物がいたことに感動！両国であまり知られていなかった事だけに、この展示が新たな日中友好の絆となり、長崎への交流のきっかけとなれば…と思いました。

今回の訪問に参加させていただき、わが長崎市においても今後益々重要な交流相手となる中国を初めて自分の目で見る事が出来たことは大変有意義であったと感謝しています。街の様、人々の暮らしぶりなど、まだまだ日本は恵まれていることを素直に感じた一方、逆に我々日本人が失いかけているかもしれないハングリー精神というか力強さ、生命力みみたいなものを街や人々から強く感じました。

友好交流の成果を市政発展の一助とできるよう、私なりに今後も努力を続けてまいります。最後に、今回の訪問に際しご理解・ご協力をいただきました関係各位に心より御礼を申し上げます。大変ありがとうございました。